



ピッチで英語を学ぶ子どもたち=東京都国分寺市で

CLUB」を開校した。代表選手がスクール事業に携わる事例は他にもあり、海外での豊富なプレー経験を基にした指導は魅力的に映る。彼らが現役の今だからこそ教えられるものとは。(浅井俊典)

日本代表主将のMF長谷部誠(ドイツ1部リーグ、アイントラハト・フランクフルト)が今年4月、出身地の静岡県藤枝市に自身の名を冠したサッカースクール「MAKOTO HASEBE SPORTS

世界と戦う哲学 直伝

代表選手携わる スクール盛況



フランス1部リーグ、メッスのGK川島永嗣(写真、共同)がアンバサダーを務める「グローバルアスリート英語サッカースクール」(東京)は、どの教室より独創的だ。60分のクラスで話されるのはすべて英語。川島のマネジメントも請け負うスクール代表理事の田中隆祐さんは「プロ選手になれるのは一握り。でも英語はサッカーをやめた後も自分を助けてくれる」と話す。

川島 指導はオール英語 国際人育成

子どもが日本語で質問してきても英語で返す。練習の合間には、ピッチで車座になって英会話教室も。田中さんは「サッカーはあくまで英語を学ぶためのツール。英語へのアレルギーを取り除くのが狙いです」。3歳児から募集しているのは、英語習得を意識してのもの。英語、フランス語、イタリア語など6カ国語を操る川島もシーズンオフの年1回、英語で指導する。首都圏に14校ある教室の3分の1はキャンセル待ちが出るほどだ。田中さんは川島のマネジメントに加え、海外へ挑戦する日本人アスリートの外国語習得のサポート事業を行っている。

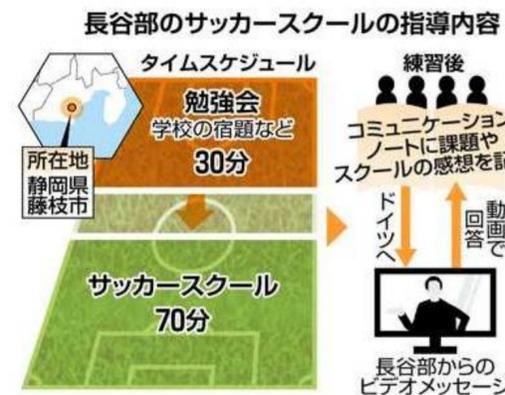
長谷部 勉強も重視 「考える力」培う

「日本には素晴らしい既存のサッカースクールがあちこちにある。その中で僕がやる意味は、海外でのかけがえのない経験を伝えたいという一心からです」。スクールが開校した4月11日、長谷部は子どもたちの指導に乗り出した思いを語った。スクール生は地元藤枝市を中心に静岡県内から集まった園児、小中学生141人。長谷部の静岡・藤枝東高サッカー部の同級生やJ1浦和時代の同期入団の元選手らがコーチを務める。ドイツ1部リーグクラブの下部組織などを視察し、長谷部の日本代表やドイツでのトレーニングメニューを子ども用にアレンジした。教室の前には、30分の勉強時間を設けた。サッカー場の中にある会議室で、学校の宿題などに取り組む。「海外で長く活躍する選手に共通するの



サッカースクールで小学生にシュートの指導をする長谷部。静岡県藤枝市の藤枝総合運動公園サッカー場で

「僕を通して海外を身近に感じること、視野を広げるきっかけにしてほしい。選手としてだけでなく、人間としても成長する手伝いができれば」。夢や目標がうまくいかなかったとき、選択できる別の道があることを伝えたいというのも、冷静さと経験を兼ね備えた代表主将らしい配慮だろう。



本田 現役の今だから「影響力持つ」

代表選手で最大規模の教室を持つのが、イタリア1部リーグ、ACミランのMF本田圭佑だ。2012年に大阪で始めた園児、小学生向けの「ソルテ」を抱える。スクール事業から中高生チーム、オーストリアのクラブの実質オーナーまで務める本田は経営者としての顔も注目されるが、そこには明確な狙いがあるという。スクール、ユースを統括する事業部長の太田亮さんは「チームを所有するのは、子どもたちをステップアップさせる受け皿のため。最終的には今いる4000人の中から本田を超える選手を育てるのが目標です」。

本田は指導内容づくりに積極的に加わっている。最近ではプレーや判断スピードの向上を重視するなど、自身が肌で感じている欧州サッカーのトレンドをいち早く取り入れた。スクール関係者が「本田のフィロソフィー(哲学)」と呼ぶ育成の理念は、自分で判断、決断する力や精神力を養うこと。本田からは「大事なのは根性。根性を植えつけてほしい」と求められている。持って生まれた才能より、強靱(きょうじん)なメンタルと努力でトップ選手になったと自己分析する本田の思いが根底にあるようだ。太田さんによると、本田が現役でのスクール事業にこだわるのは「ミランの10番、日本代表だからこそ、自分の言葉が影響力を持つ」との考えから。もちろん、いつかは引退するときに、スクールはその後に備え、本田に頼りすぎない経営の基盤づくりを進めている。



サッカークリニックで子どもたちと触れ合う本田=千葉市で(HONDA ESTILO提供)

サッカークリニックで子どもたちと触れ合う本田=千葉市で(HONDA ESTILO提供)